

# 滋賀県の地震

令和5年(2023年)3月

## 目次

### 1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	3

### 2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	4
(2)概況	-----	4

### 3 地震一口メモ

推計震度分布図の高解像度化・高精度化について

令和5年2月1日からの防災気象情報の強化について その2	-----	5
------------------------------	-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

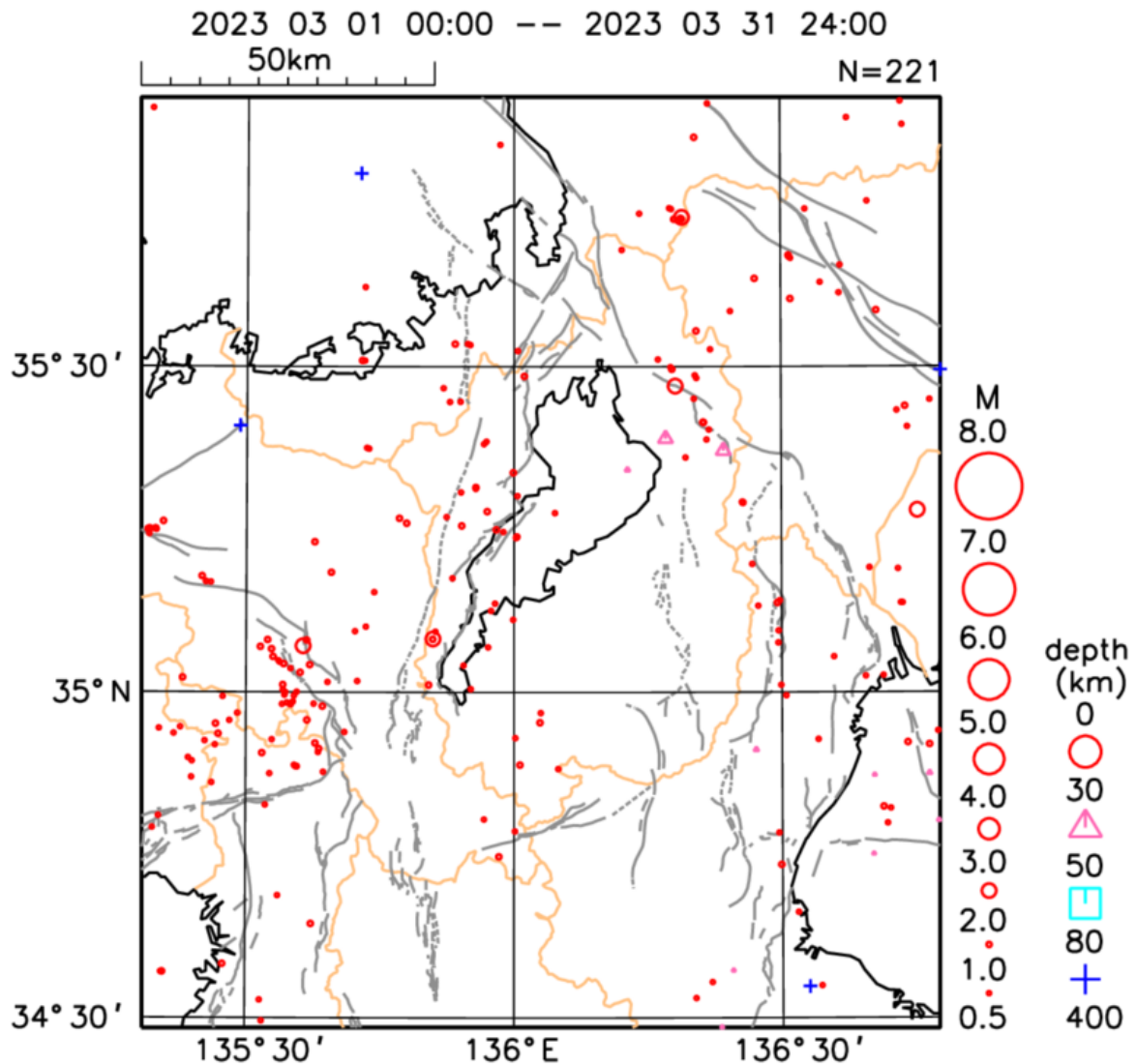
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

# 1 滋賀県の地震活動(令和5年3月)

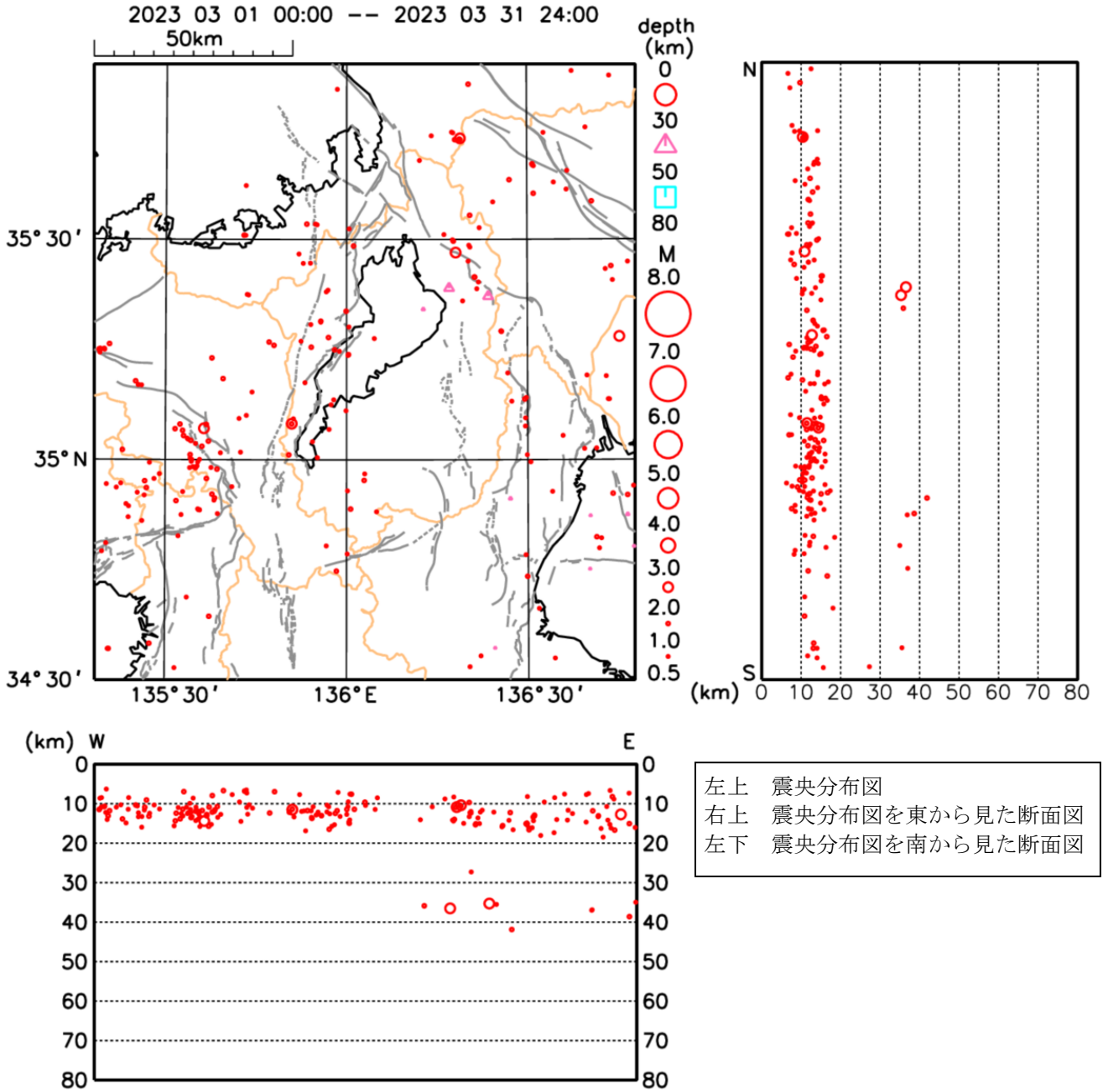
## (1) 震央分布図



## (2) 概況

3月に震央分布図内で震源決定できた M2.0 以上の地震は 11 回 (前月 10 回) でした。滋賀県内で震度 1 以上の揺れを観測した地震はありませんでした (前月 0 回)。

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

#### **(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表**

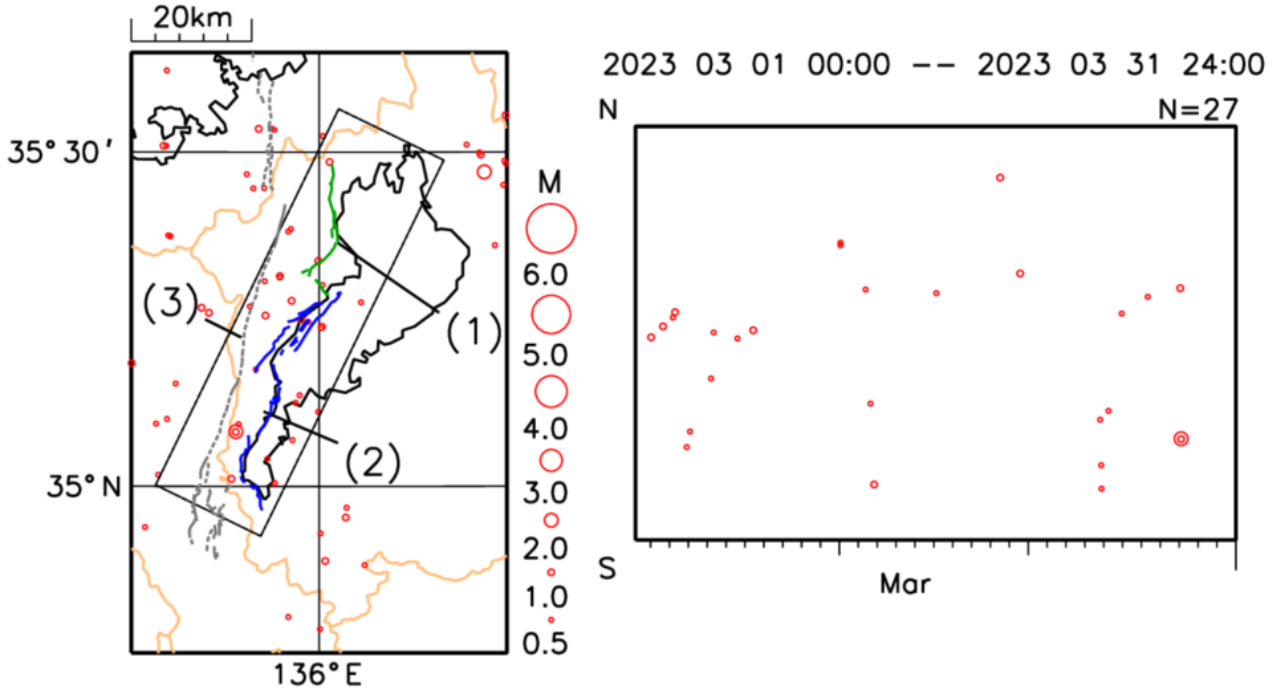
3月に滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

#### **(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布**

3月に滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

## 2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和 5 年 3 月)

### (1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



#### (上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度（実線部>破線部）を表す。

- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

#### (右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸（縦軸）に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

#### (右下) 地震活動経過図（規模別）

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

#### 琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市（旧マキノ町）から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が 1 つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

（地震調査研究推進本部の長期評価（2009）による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2023 年 1 月 1 日。）

## (2) 概況

3 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 1 回（前月 0 回）で、同領域内の地震で、震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。



### 3 地震一口メモ

## 推計震度分布図の高解像度化・高精度化について

令和5年2月1日からの防災気象情報の強化について その2

震度5弱以上の地震が発生した場合に、気象庁では、震度観測点の無い地域を含む震度分布を面的に推計した推計震度分布図の提供を行っていますが、令和5年2月1日から従来よりも高解像度化・高精度化された推計震度分布図の提供を始めました。

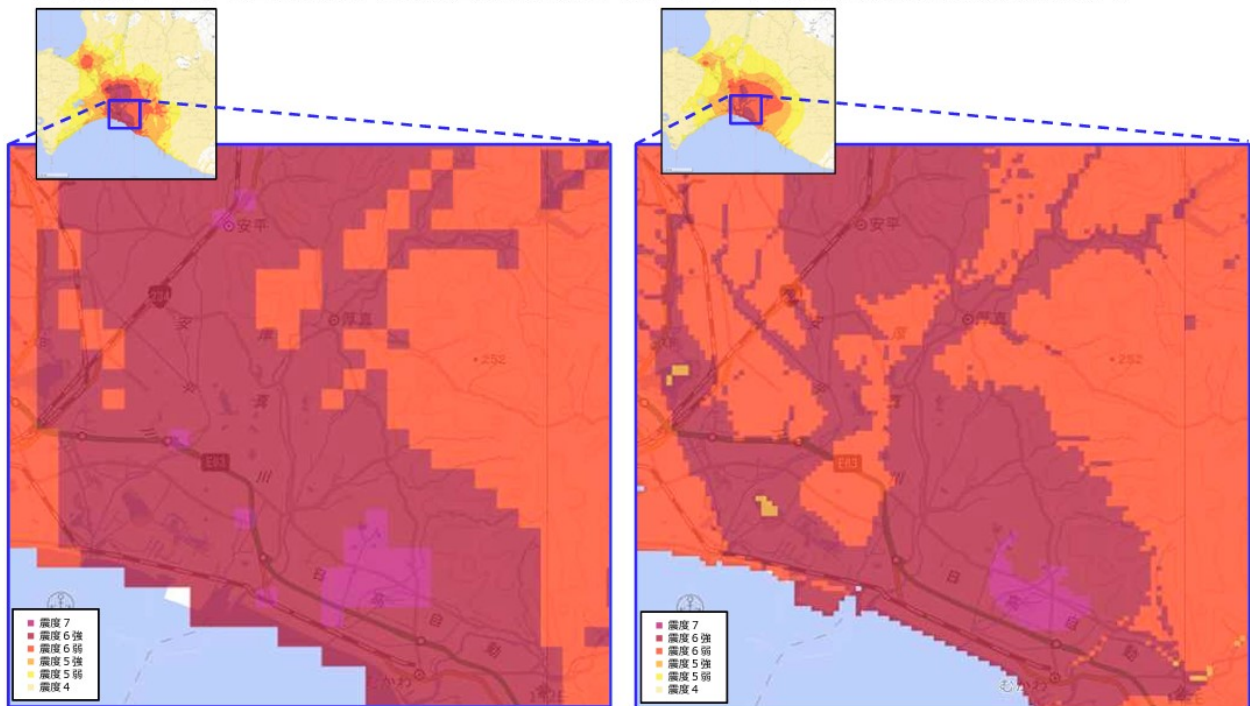
具体的には計算に使用している地盤情報のメッシュサイズ1km から250m に高解像度化するとともに、緊急地震速報の震度予測技術を用いることにより、停電や通信断などで震度が入手出来ない観測点があった場合でも、高い精度の推計震度分布図を提供できるようになりました。

地震発生直後の適切な救援ルート・避難場所の選定や、応急対応優先箇所の判別等にご利用ください。

### 1 kmメッシュと250mメッシュ推計震度分布図の比較事例

#### 平成30年北海道胆振東部地震

(平成30年9月6日03時07分に発生した地震：マグニチュード6.7、深さ37km、最大震度7)



1 kmメッシュ推計震度分布図

250mメッシュ推計震度分布図 (イメージ) ※

※ 250mメッシュ推計震度分布図(イメージ)は、後日精査した震度及び震源データを用いて、計算した結果です。1kmメッシュに比べ、強い揺れの範囲を、より細かいメッシュで確認いただくことができます。

2022年12月16日 推計震度分布図の高解像度化・高精度化についての報道発表資料より

詳細は気象庁 HP をご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/suikei/kaisetsu.html>

(推計震度分布図について)

[https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated\\_intensity\\_map](https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map)

(防災情報－推計震度分布図)